

小中連携した西浦小中学校区学校運営協議会

1 学校規模等

- ・小学校 通常学級8、特別支援学級2、計10学級 全校児童191人
中学校 通常学級6、特別支援学級2、計8学級 全校生徒130人
- ・1小1中（西浦中学校）の学区であり、令和8年度に新たに「義務教育学校」として開校予定で、公民館や児童クラブも併設され、子どもたちにとっての「学びの場」だけでなく、地域にとっても「新しい学びの場」となるように準備を進めている。

2 設置関係

- ・設置開始時期 令和4年度～
 - ・行政機関部署 蒲郡市教育委員会 学校教育課、生涯学習課
 - ・学校運営協議会委員
 - 【地域】西浦地区5地区総代（5名）、西浦地区市議会議員（1名）、
公民館長・主事（2名）、民生委員長・主任児童委員（3名）、
小中PTA会長・女性部長（4名）、地域住民代表（3名）、
地域学校協働活動推進員（2名）、
青少年センター所長（1名）、前運営協議会会長（1名）（計22名）
 - ・事務局 【学 校】小中校長、教頭、総括事務長、主任（計6名）
 - ・オブザーバー【市教委】統括コーディネーター、主幹、課長補佐（計3名）
- 【総計31名】

3 当日の視察より

(1) 視察内容

- ・運営協議会参観（協議会委員＋西浦小学校・西浦中学校教職員参加）

(2) 運営協議会次第

- ・開会のことば→会長あいさつ→経過報告→**熟議**→その他→閉会のことば

(3) **熟議**「みんなで考えよう 西浦のこどもたちの『みらい』について」

① 目的（地域の方と教職員が一緒に考える）

- ・「育てたい子どもの姿」と新しい学校にふさわしい「学びの柱」について考える。

② 方法

グループに分かれ、小中学校の教員が進行担当者となり、西浦の子どもたちの「現在」を踏まえて、「みらい」を考える。地域・家庭と教員のそれぞれが自分の考えを色別の付箋に書いたものをワークシートに貼りながら発表をし、その中でお互いの考えについて意見交流も行う。最後にグループ発表を行い、考えを共有する。



【意見を出し合う】



【意見を交流する】



【発表する】



【傾聴し共有する】

(4) 現状の成果 (○) と課題 (★)

○地域の方々が子どもたちの教育活動に協力的であるだけでなく、その風土が既に根付いているので、教員が変わっても、地域がその活動を支えてくれている。

○運営協議会委員には、学識経験者もいるので、意識が高く、前向きな意見が多く出され、よい雰囲気の中で協議会を進めることができている。

★令和3年度より地域学校協働活動が先行して行われていたため、運営協議会が後追いしている状況がある。運営協議会が様々な活動を方針として位置付けることで、活動に意味をもたせていきたい。そのためにも、何のための運営協議会かを学校・保護者・地域に浸透させ、意識を同じ方向に向けていく必要がある。

★年度ごとに交代する充て職も大切だが、継続して参加できる委員をどう人選していくのかも重要である。

(5) 運営協議会の議題 (令和5年度)

第1回 規則・要綱・報酬について、組織作り・任命状、学校経営方針の承認

第2回 協議「今後の運営協議会について」

第3回 視察報告、熟議「みんなで考えよう 西浦の子どもたちの『みらい』について」

第4回 研修等 (学校運営に関する研修)

第5回 学校評価、来年度の組織、来年度の協議事項

4 年間計画概要

※地域学校協働活動の内容 (主なR4の実績及びR5の予定) も含む

事業等		事業等	
4月	役員会① 第1回運営協議会 給食配膳サポート	10月	役員会⑦ 高齢者招待交流会 運動場草刈り
5月	役員会② アイシングクッキー教室	11月	役員会⑧ 第4回運営協議会 小麦の種まき
6月	役員会③ 第2回運営協議会 昔遊び紹介 プログラミング講座・釣り体験等手伝い	12月	役員会⑨ チャレンジガーデンづくり手伝い 家庭科・くぎ打ちトントン教室等手伝い
7月	役員会④ 家庭科・クルージング体験手伝い	1月	役員会⑩ 老人クラブ発表会
8月	役員会⑤ 第3回運営協議会	2月	役員会⑪ 第5回運営協議会 麦踏み体験手伝い

5 視察所感

「9年間を通じた、地域とともにある『学校づくり』」を考えたときに、年代も職種も違う人々が顔を突き合わせ、「西浦の子どものみらい」を柱に据えて、お互いの考えを気軽に話すことのできる場が本当に重要な役割を果たしていることを実感した。地域とのつながりが希薄になりつつある現代において、学校が地域と保護者をつなぐ役割も担っていかなければならない。ただ、それを学校だけがやるのではなく、それぞれの立場の人々が、「地域の子どもを地域で育てる」ことを自分事として捉え、行動していけるような仕掛けづくりを工夫していくことが必要である。